

2008年7月29日 電話会議

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

2009年3月期第1四半期業績概況資料

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

広報IR部 田中 久

: 03-3248-2235

E-mail: tanakah@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

第1四半期は増収増益、通期目標は据え置き

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

2009年3月期第1四半期連結業績と第2四半期・通期業績見込

単位:金額=億円 (未満切捨て)	1 Q		2 Q(累計)			通期		
		前年比	(E)	当初(E)比	前年比	(E)	当初(E)比	前年比
売上高	1,194	+60	2,379	-	+68	4,796	-	+160
営業利益	48	+12	89	-	+9	178	-	+4
経常利益	46	+10	81	-	+3	162	-	-6
当期(四半期)純利益	17	-3	37	-	-10	90	-	-6

注:(E)は今回発表した見込、当初(E)は5月13日に発表した見込。

1. 売上高

第1四半期は全ての事業で増収となり、全体では5%の増収。セグメント別では畜産が13%、低温物流が5%の増収に、餃子事件の影響を受けた加工食品も好調な業務用が牽引し4%の増収となった。

中間期・通期目標は当初予想を据え置く。

2. 営業利益

第1四半期は水産の大幅な損益改善に加え、加工食品、畜産、低温物流でも増益となり、全体では前年比33%の増益となった。

ただし、加工食品の増益は業績悪化した前年同期の反動によるものが大きく、中間期の計画に対する進捗についてはアセロラ等の不振もあり遅れが出ている。

中間期・通期目標は当初予想を据え置く。

3. 経常利益・当期純利益

第1四半期の特別損失でリース会計基準変更時差異17億円を計上。

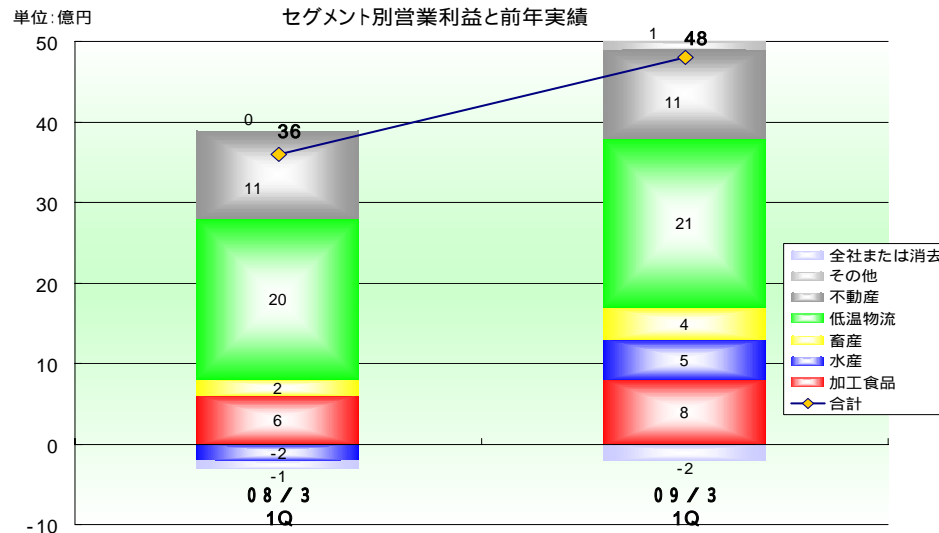
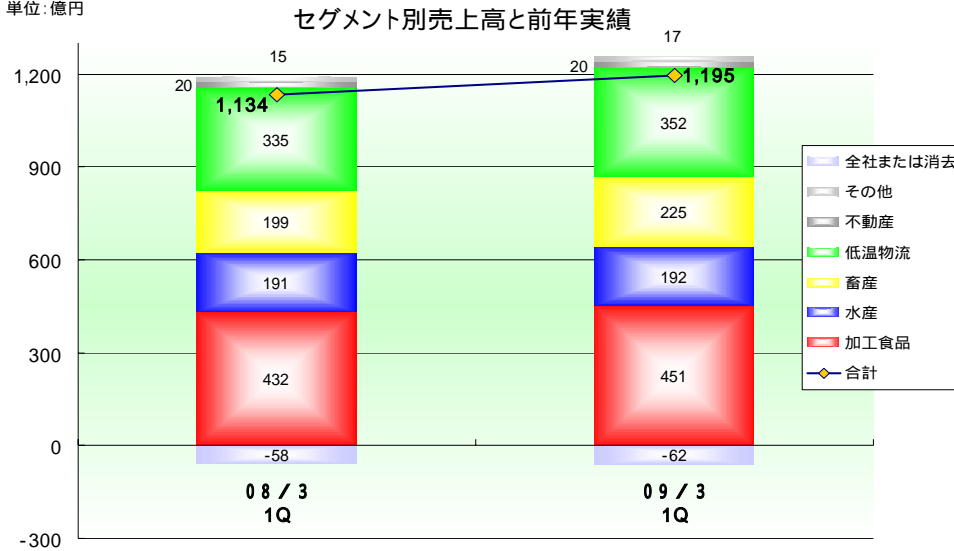
加食は前年上回るが計画比で遅れ。水産・畜産が好調

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

セグメント別売上高と営業利益(その1)

(以下、グラフの金額単位表示未満は四捨五入し一部で端数調整のため切り上げ・切り捨てを行っている)

単位: 億円



1.加工食品

第1四半期の売上は4%の増収。家庭用での餃子事件の影響や、アセロラの不振はあったものの、業務用は目標を上回って推移した。家庭用は事件後変動した市場の中でシェアを伸ばした。営業利益は前年比で2億円の増益となったが、計画ベースではリニューアルしたアセロラの売上不振等に伴う遅れが出ている。今後はアセロラの回転促進策等へ集中的に取り組む。

2.水産

第1四半期の売上は微増ながら、損益改善により営業黒字に。前年上期に悪化していたえびの採算性が前年下期以降改善しており、固定費の圧縮効果とあわせて7億円の大幅増益となった。

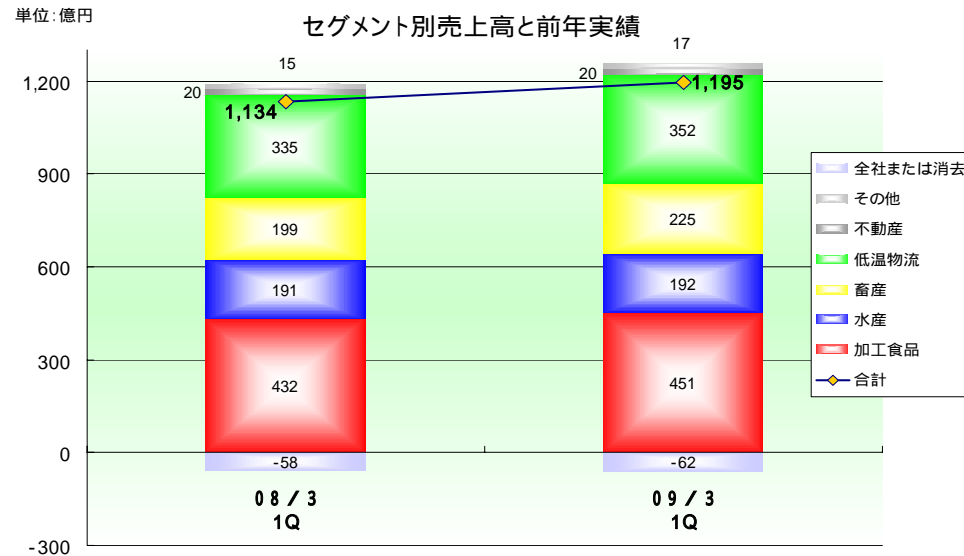
3.畜産

第1四半期は13%の増収。畜肉全般の価格上昇に際して価格の安い鶏肉の需要が拡大した結果、輸入チキンを中心に大きく収益を伸ばし2億円の増益となった。

低温物流は好調な海外が牽引

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

セグメント別売上高と営業利益(その2)



4.低温物流

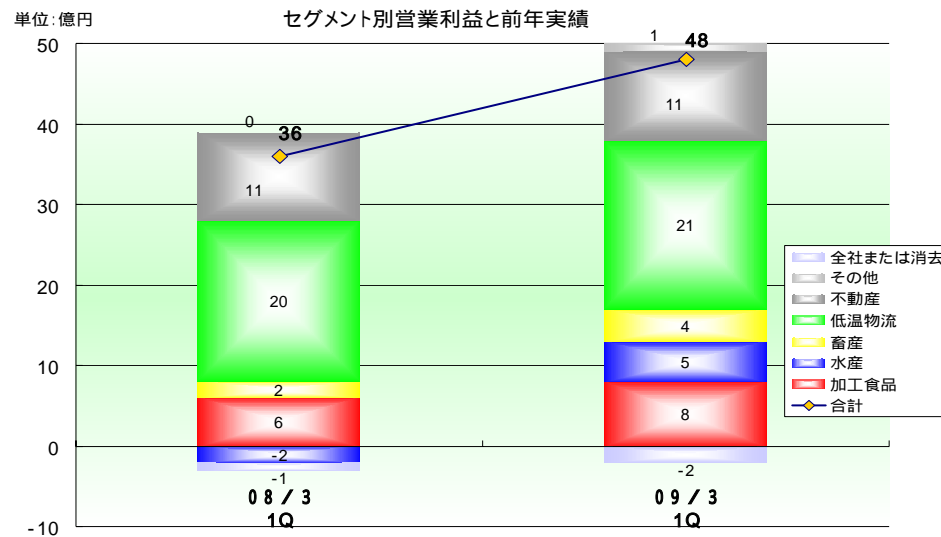
第1四半期は全体では前年比5%の増収、1億円の増益で、海外事業が欧州で引き続き順調に推移したことが最大の要因。国内では、物流ネットワークでのCVS・青果等の新たなチャネルへの取組みや、地域保管での集荷努力などが増収に貢献するが、営業利益は前年並みに止まる。

5.不動産

第1四半期は前年比ほぼ横這い。賃貸物件中心に計画通り推移。

6.その他

バイオサイエンスが培地製品を中心に売上を伸ばした結果、その他事業全体では増収・増益に。



業務用は好調に推移、家庭用は餃子事件の影響薄らぐ

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

1. 冷凍食品全般

第1四半期冷凍食品売上高

前年比7%の増収。業務用のチキンやコロッケ類が牽引。家庭用は餃子事件の影響を受けつつも、金額ベースでは前年に近いところまで戻ってきている。

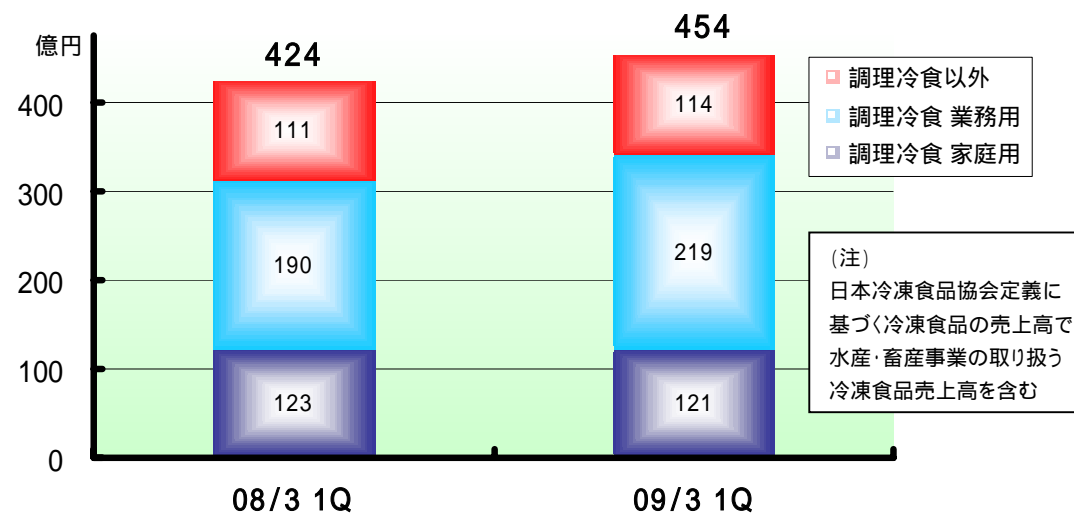
2. 調理冷食

家庭用：前年比2%の減収。餃子事件の影響は月ごとに徐々に小さくなっており、一部おにぎり等で自炊回帰の影響を受け回復が遅れている商品もあるが、家庭用全体では第一四半期でほぼ前年に近いところまで回復。主力の「お弁当にGood!」シリーズでは「パリパリ春巻」が好調に推移した。

餃子事件前後のシェアを比較すると1月で11%、6月で13%となっており、事件後に変動する市場の中で着実にシェアを上げている(日経POS調べ)

業務用：前年比15%の増収。チキンとコロッケを中心に、中食市場をメインターゲットとした商品が好調に推移している。

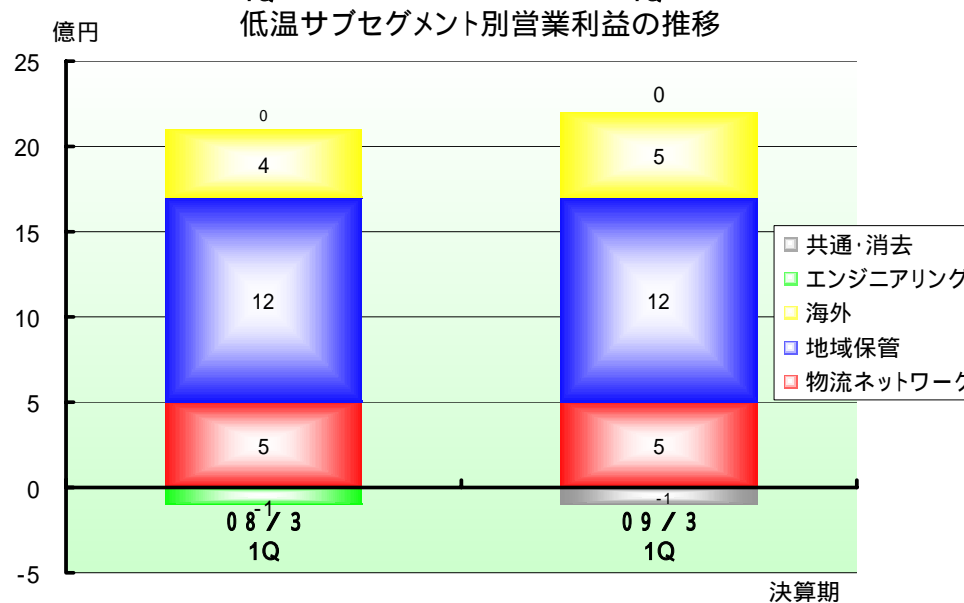
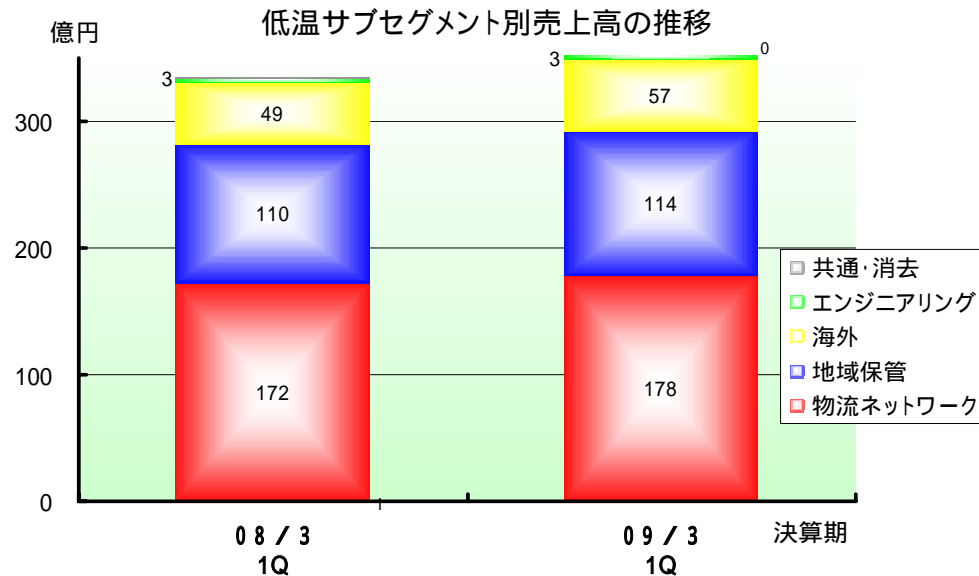
冷凍食品売上高の推移



欧州は港湾部の保管と運送が高い稼働で推移

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

低温物流事業の対前期比増減の要因



1. 物流ネットワーク

ネットワークでは3%の増収。CVSや青果配送等の新規チャネルの運送収入が増収に貢献した。

サーチャージ収受率の改善に取り組むも、原油価格高騰の影響もあり営業利益は前年並み。

2. 地域保管

地域に密着した集荷活動の継続と、新センター(横浜 1.1万トン)の稼働により4%の増収。

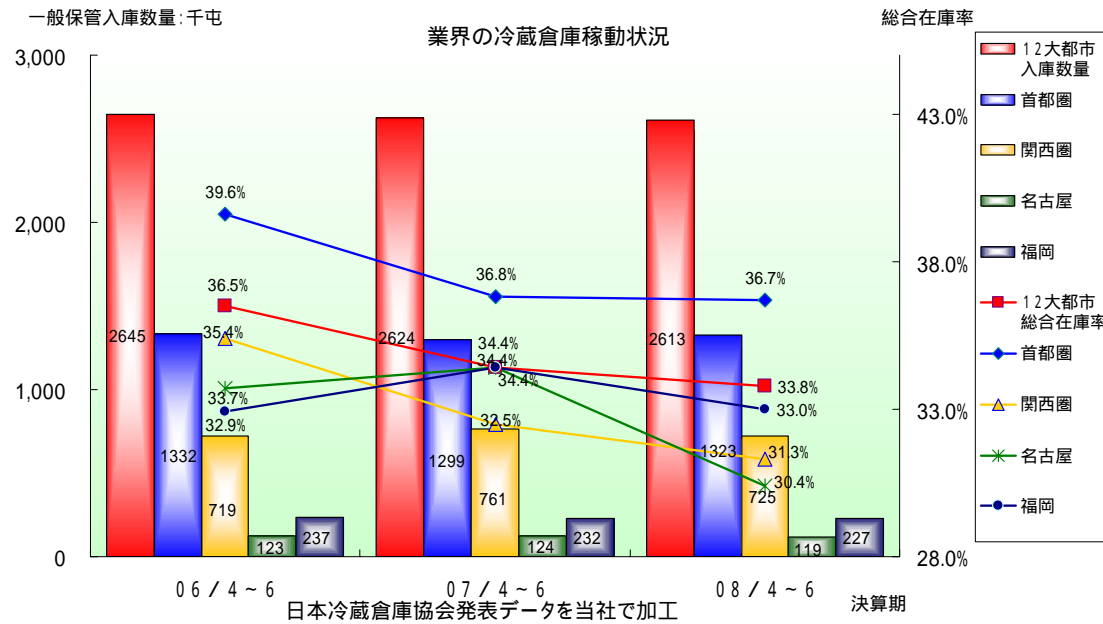
センター新規稼働費用、旧センターの閉鎖関連費用等で営業利益は前年をやや下回る。

3. 海外

海外では17%の増収・1億円の増益。欧州では港湾部の冷蔵庫がフル稼働に近い状態で推移。運送も順調に取扱が増加している。

業界は貨物量が減少する中で当社は在庫率を維持

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **ニチレイ**

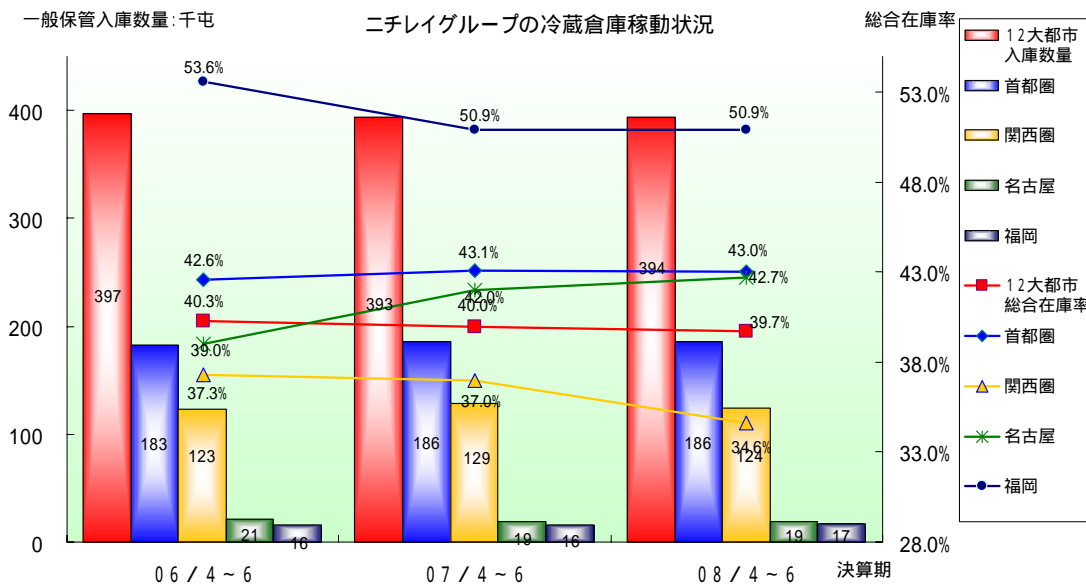


1.業界の状況

首都圏で入庫量が回復するも、12都市計、その他のエリアでは減少。総合在庫率も前年比で全体的に低下。

2.ニチレイグループの状況

入庫量、総合在庫率ともにほぼ前年並みを維持した。



会計基準変更によるリース資産・負債が増大

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

09 / 3 第1四半期連結バランスシートの変動要因

単位：億円(未満切り捨て)

科目	08/3	08/6	増減	
(資産の部)				
流動資産	1,030	1,120	+89	
固定資産	1,547	1,787	+240	
資産の部合計	2,578	2,908	+330	
(負債・資本の部)				
流動負債	812	1,089	+277	
固定負債	600	662	+61	
負債の部合計	1,413	1,751	+338	
純資産の部	1,164	1,156	-8	
(うち株主資本)	1,073	1,066	-6	
(有利子負債)	661	734	+73	
科目	07/6	08/6	増減	
(設備投資額)	24	35	+11	
(減価償却実施額)	23	23	+0	
(リース資産減価償却)	-	9	+9	

【主な要因】

売上高増加に伴い売上債権が45億円増加、夏場の需要期に向け加工食品・水産・畜産で商品在庫を積み増したこともあり、たな卸資産が23億円増加した。

有形固定資産は会計基準変更に伴うリース資産の計上による205億円とキューレイ子会社化の22億円が増加。

流動負債の主な増分は固定負債からの長期借入金の振替120億円によるもの。また、運転資金の一時的な増加に対応するため短期借入金が54億円、商業ペーパーが70億円増加。また、リース債務の増加が固定負債で203億円、流動負債で36億円それぞれ発生。

運転資金の一時的な増加に対応するため短期借入金、CPが増加。

第1四半期の設備投資の主なもの
 地域保管 横浜建替工事、松江増設工事
 加工食品 ウエルネス ライン新設

データ集

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

セグメント別売上高・営業利益の実績・見込・前年実績

単位:億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

	第1四半期		第2四半期		第2四半期(累計)		通期	
	09 / 3	08 / 3	09 / 3 (E)	08 / 3	09 / 3 (E)	08 / 3	09 / 3 (E)	08 / 3
(売上高)								
加工食品	451	432	476	453	927	885	1,878	1,750
水産	192	191	188	191	380	382	744	747
畜産	225	199	211	204	436	403	860	839
低温物流	352	335	345	353	697	688	1,425	1,387
不動産	20	20	16	19	36	39	73	75
その他	17	15	14	14	31	29	66	63
全社または消去	-62	-58	-66	-57	-128	-115	-250	-225
合計	1,195	1,134	1,184	1,177	2,379	2,311	4,796	4,636
(営業利益)								
加工食品	8	6	24	9	32	15	57	41
水産	5	-2	-4	-1	1	-3	2	-5
畜産	4	2	0	1	4	3	8	6
低温物流	21	20	17	23	38	43	78	85
不動産	11	11	7	11	18	22	36	43
その他	1	0	-2	0	-1	0	1	2
全社または消去	-2	-1	-1	1	-3	0	-4	2
合計	48	36	41	44	89	80	178	174

注:第2四半期(累計)と通期の見込数値(E)は5月13日に発表したものから変更していない

当資料取扱い上のご注意

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- 米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- 商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- 新商品・新サービス開発の実現性
- 成長戦略とローコスト構造の実現性
- ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- 偶発事象の結果

など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。